

豊かで 伸びやかに そしてたくましく



スカウト みやぎ

NO. 5号増刊

発行 日本ボースカウト宮城県連盟
発行日 平成16年10月30日発行

6 N V 特集

6 N Vで思ったこと

6 N Vで私は、白石1団の国井君とバディで、栃木県の烏山基地を選択した。ここでは『冒険広場が町にやってくる』というテーマでパイオニアリングなどの技術を基に丸太とロープでアスレチックを作り、地元の子供達に提供するというものだった。会場は栃木県の烏山野営場。野営場とは名ばかりの荒地という期待外れだった。だから最初は本当に直ぐにでも帰りたいとさえ思ったが、今はあの荒地で、あの仲間たちと、あの一週間の活動ができたことをとても良かったと思っている。

とても短い間ではあったが、私は気づかされること、学ぶことが多かった。私達は、二人とも富士スカウトのバディだったからこそ、それに見合った有意義な活動が出来たのだと思う。自分達が仕切った！などと思われたら、などという変な遠慮はせず、活動がよりスムーズに、グループのみんながより協力してやり遂げられるよう引っ張っていくことが出来た。誤解しないで欲しい。富士スカウトだから、偉いとか格上だというのはないのだ。ただ、これまで行なってきたいろいろな活動によって自信が持てたというだけだ。私達は他の参加スカウトと比べても、中身的にはさほど変わらないはずだから。

こうして私達二人は、烏山基地の中心にいた。そのため、リーダーから全体への連絡、

石巻6団ベンチャー隊 五十嵐麻依

代表者会議の調整、フォーラムの議事運営（議長など）までこなさなければならない羽目になった。リーダーから頼まれるたびに、私達二人は携帯メールで原隊の隊長に不平をこぼしたり、不満を言ったりしたが、基地のリーダーは私達を信頼してくれたからだ、今は思う。

けれど、先頭に立って無茶をしてスタッフに迷惑を掛けてしまったりもした。空いた時間をどれだけ上手に使うかもスカウティグの一つだろう。ベンチャー大会はジャンボリーなどとは違う。いかに安全に活動するかも、いかに楽しむかも、いかにプログラムがスムーズに展開できるかも、すべて自分たち次第なのだ。面倒臭いと思っていたプロジェクト法の大切さも本当の意味で再確認できた。また、原隊の隊長からずっと言われ続けていた、富士章が最終目的ではなく、その後の活動がいかに大切で大事かもよくわかった。

今回、幸いにもWJでの仲間にも再会できたし、新たな仲間も沢山増えた。6 N V後の今も頻繁に連絡を取り合っている。また何時か同じメンバーで何か新しい活動ができればと夢みている。あの仲間たちと再会できるまでに、より一層活動を積み重ね、ひとまわり大きくなっていられればと思っている。

6 N Vに参加して

今回の大会ではテーマ「Do Venture !! 出発だ！素晴らしい明日に」の通り、これからの自分にとって大切なものを沢山学べたと思う。

私が参加した「水プログラム」では水に関わる様々な活動を行った。その中で特に印象に残っているのがスキューバダイビングである。水深5メートルの水中遊泳など貴重な体験ができたと思っている。他にもシーカヤックやスキンドайビングなど今回行ったプログ

泉1団ベンチャー隊 佐藤祐希

ラムには再び挑戦したい。また、今回の大会で全国に多くの仲間が出来た。同じプログラムと一緒に取り組むことでお互いに絆を深めることができたものと考えている。一回限りではなく、また同じメンバーと一緒に活動したい。

長かったような、短かったような7日間。この大会を通して得た、様々なことをこれからのスカウティングに、そして自分の未来に生かしていきたいと思う。

僕の6NVを終えての感想は、一つだけです。それはプログラムについてのことです。僕たちが選択したプログラムは「水上スキーとサバイバル」でした。

水上スキーでは、最初はふらついて水面から立ち上がるのがやっとでした。しかし、練習するにつれて立ち上がれるようになりました。水上スキーをやることは滅多になかったので良い経験になりました。

サバイバルでは、自衛官の人が直々にロー

プ結び、降下訓練、鶏のさばき方、救急法、通信を教えて下さり、また、富士の演習場で露営キャンプをしました。

露営キャンプではボンチョを忘れてしまったので露営の仕方を考えるのに苦労しました。

過去に数回このようなキャンプをしてきましたが、こんなおもしろいプログラムは初めてでした。他県のスカウトとも交流ができたので、この6NVでの思い出を忘れないように深く刻みました。

第6回日本ベンチャー大会に参加して

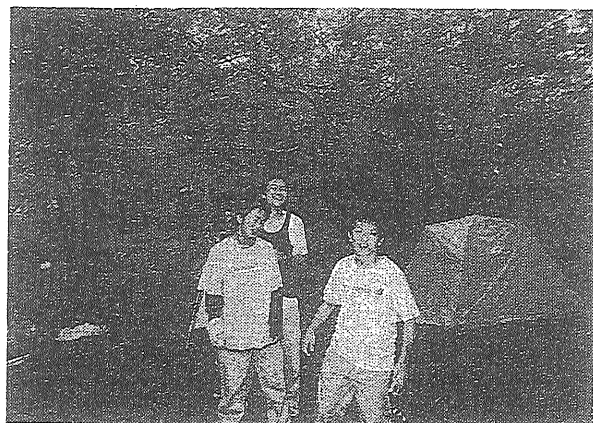
角田1団 VS隊 野竹内政宏

今年の8月に6NVというベンチャースカウトの大会がありました。その大会に角田1団と白石1団から2名づつ4名が参加しました。

6NVではいろいろなプログラムが企画されていて、角田・白石のチームはサイクリングとヨットというプログラムに参加することになりました。プログラムによっては、活動場所が違い、サイクリングとヨットは山梨県で行われました。

サイクリングでは出発前に白石のメンバーの1人が体調不良でリタイアし、ヨットと夜のプログラムは私が体調不良でダウンしてしまいました。

私が6NVに参加して一番良かったと思ったことは、宮城県連盟以外の人と友達になったことと、7日に体験することができたヨットがとても楽しかったことです。会場で同じサイトだった奈良県の人や、愛知県の人達、



その他にもいろいろな人と知り合えたことが一番良かったです。

6NVで学んだことを忘れずに、これからのスカウト活動に生かして行こうと思っています。

6NVで得たモノ

仙台1団VS隊 東海林 歩

高校2年の貴重な夏休にこれを充てたことは、振り返って見ると將に正解だったと改めて思える。思い出の全てのモノが今でも鮮明に心に焼きついている。

私の6NVは富士山の麓、山中野営場と自衛隊東富士演習場を舞台に展開された。「サバイバルと水上スキー」のプログラム参加を主な活動とした私と、パディーの西村君のプロジェクト計画を基に志高く舞台へと向かった。

大会前半は自衛隊のサポートで演習場内でサバイバルの訓練を行った。露営・オリエンテーリング・救急法・ロープ降下・鶏のさばき方・調理法等の充実感溢れる活動を実施した。これらは体力的、精神的にも過酷な環境下で行われ、同時にこの中でこそ育まれたスカウトの団結、友情が一層素晴らしく思えた。また、社会人となる上で重要な責任や計画性の大切さを自衛隊の方々の言動で学び取れ、ここでの活動で多くの貴重なモノが得られ、豊作の気分プログラムを終えることが出来

たのだった。リーダーの方々もまた大いに痛感していた様子であった。

大会後半は前半と異なり穏やかなムード色の雰囲気ですべて水上スキープログラムが展開した。水上スキーは皆初めてのようで、私も含めて多くがぎこちなく、激しくミスを繰り返していたが、次第に慣れと共に徐々にジャンプを試みたり、それぞれが楽しく笑顔で出来るようになっていった。

プログラム以外にも素晴らしいものが得られた。テントサイトで出来た仲間だ。隣のサイトにいたクーとファリアナ。彼等とは6NV参加の前のホームステイで出来た友達で再開を喜んだ。夜にはサバイバルで出来た仲間が来て話しこんだ。いずれも私の宝モノである。

これらの貴重な宝モノを得た6NVでの全ての活動を支えて頂いたリーダー、スカウト、自衛隊の方々、両親、そしてパディーの西村君などの皆さんに深く感謝している。

泉2團VS隊 有磯一中

良ス。分周匹もギてチば
もバた自。1さ間つづれ
もたしで、たか重時け「い
ヨいのでして。だづて計
シにりじでんて無んき上。匹あた良
イト釣感配なて無んき上。だづて3自
デンるじ心、つ応摺えを。匹あた良
ンイレ同か下太反を耐れ。1もしク
コボらとる況かはゴがそにたとでゴ
。のい日れ状な後アン。のっこ念ス
り。前強前らいかのはイたた釣た残は
曇、を。げななそ後ラつつにはり
は、が戦日上いた。コまだ初か果釣
。りた苦当りてした。トエしし最な結のる。
した釣して会釣げしした。トエしし最な結のる。
し。のまい大に上までとろれいがが少。湖でい
ま目いてて当りげじでこ切達な魚し口つ
い日思つし本釣上感りとと問念たたま河思
ら5と散そ身はりいギう。勝残つしてと
もいは。自り釣良りいッ優釣貰つた

てグ。のし山り
とんた山ま士あ
てりし士い富も
しクま富ててと
加いき、ししこ
参サてはと通る
にはしでトをえ
会私加ムクム見た
大。参ラエラ部し
一たにグジク一で
ヤシムロ口口は念
チまらブブに残レ
ンアリグのをく時
本がブンコがりと
日験のりる候か、
回経トク撮天かが
6いッイを、がた
第いヨサ真が雲し
もと 写たにま

に行れあ
目ら。が
日目見た会
2日をし習
3山ま講
ム。土れに
一穴富く煎
大水がて午
湖せは
穴五ままで
一風士しム
富楽ラ
やをグ
行モのた
私私の
目コ富もト
紅とッ
1ったくヨ
行つな

が、ま、しうてぎれを後
たりが了よつ漕さ法今
しわた終た思に右方で
ま終しにと散左なの
しにでめかか解にうだ
をめ練早な止事候よんた
習早調もれ中無天る学し
練しト日乗でてはでとい
て少ッのり中つと応こ思
つ、ヨこまのなこ対た
乗りら、ありくこ対た
になかりは降弱た、つい
トく朝なにはヤがつ合かた
ッ悪もくトた。シ雨思場良て
ヨが日悪ッし下。でるば立
に候のがヨまはがた会あれ役
後天次候、し式たし大が来に
午で。天めが会しまのとて動
、中たたた気閉まけここえ活
り途しまたないつる考の

6 NVで目標みつけた

石巻2団VS隊 対馬 彩

[illegible]

今回の6NVは初めて体験ばかりだった。大きな川をボート・カヌーで下り、利根川まで上る。TDLにゆったりした時間。過ごし、帰る。通しな技能章取得。目標が見つけると、甲斐が見つけると、1週間の6NVだった。

して、TDLでの話し。私は何度かいつ
 てるの、だが、今回初めて。気づいたことがある
 人。今車椅子の人が、来い。その人達がいるに
 進んでいい。なぜ、あんなに、その人達が進めるの
 ろう…。そう思ひ、足元を見ても、その理由が分
 かった。TDLには、一歩もないのだ。いい椅子が
 まづく。ようなん。段差が、無くて、考えな。段差
 がない？」人喜ん。き。と、幅広の年々、だ。う。
 が、い。から、段差。い。今、回、それ。は。多。分。
 した。で、ろ。う？」行。った。ら。う。な。ら。ボ。ー。
 だ。「遊びに、行。た。ら。う。な。ら。ボ。ー。
 気づか。な。か。い。と。感。じ。た。6NVであ。つ。た。



バスつりのプロジェクトで学んだこと

泉2団VS隊 安杖祐紀

泉2団VS隊 吉岡 佑

8月3・6・7日、私は第6回ベンチャー大会の一環としてバスフィッシングをしました。場所は富士山を望む河口湖です。出発前までに殆ど釣りをしたことがなく、河口湖は全国有数のバスフィッシングの名所であることを知りました。

バスフィッシングは、プログラムの中に3回あり、実際に釣りをする前にバスプロの方から河口湖の生態系についての講話があり、『全国ではバスが湖沼の生態系を壊しているといわれているが、場所によっては寧ろ鯉が生態系を壊している所もある』ということを知り、生態系の歪みを全てバスのせいにするのではなく、問題をいろいろな側面からキチンと考える必要があることを知りました。

実習を始めた直後は、まともに投げることも出来なかったのですが、講師の方から丁寧に教えてもらい、最終日にはキチンと投げられるようになりました。

天候に恵まれ過ぎ、水温が上がリバスを釣ることはできませんでした。しかし、釣り方の基礎や楽しさを学ぶことが出来たことはとても意義があることだったと思いました。次に釣りをする機会があった時には是非一匹でも釣って見たいと思っています。

6NVに参加して、このキャンプでいろいろなことがわかりました。

今、日本ではバスのせいで元来そこに住んでいる魚たちが居なくなっているといわれていますが、本当はバスだけのせいではなく、鯉なども他の魚の卵を食べていることがわかりました。だからバスはバスだけがいる湖を造ったほうがよいのです。

他には湖や川の環境がどうなっているかを学びました。今、湖や川は釣り人たちがマナーを守らないために環境が悪化しておりますが、これ以上悪化させないためには使ったラインなども持ち帰ったり、落ちているラインや針を見つけたら拾い上げるなどすれば水辺も綺麗になります。また、これから使うルアーやラインはエコにすることとし、根がかりをしたとしても数年後には根がかりをしたワームは分解されてなくなります。一人一人の釣り人が、こうした心掛けをすれば自然の環境もよくなってくるとおもいます。だから自分も、これからも自然を考えていきたいと思っています。

ベンチャー大会での釣り

泉2団VS隊 岩淵哲明

今回のベンチャー大会での釣りは山梨県河口湖で行われました。

今回の釣りにあたりバスプロの 関 氏から講義を受けました。釣りが趣味の私にとっては、かなり有意義なものでした。

そこで学んだことの幾つかのうちバス放流禁止の話がありました。放流禁止にすると釣り客が減り、その結果入漁料も減ってきて湖や川の整備が出来なくなってきたり、また、釣り人が少なくなると釣り上げられる魚も少なくなると魚の傷みも減少して来るなどの連鎖反応がおきてあまりよい結果にはならないということや釣り人のマナーと釣りの基本を教わりました。

実技では自然に戻るワームを使用することが義務付けられ又ラインも自然に戻るもので



した。講義の後には、試し釣りを経てトーナメントになった時には、有機君が3位、私は4位と宮城県勢は頑張りました。

本大会では釣りの技術は期待したほど向上しなかったのですが 関 氏の話は大変勉強になりました。